彼方【かなた】

校長通信
H30.1.19
Vol.26

【木の上に立って見守る親の姿】

小学校と中学校の決定的な違いは出口です。小学校でも中学校受験で自分の進路を決めていく場合もありますが、多くの児童は卒業後に進む学校の心配をする必要がありません。ところが公立中学校は、全員が三年後に自分の進むべき道を選択・決定し、進路実現していかなければなりません。そこが大きな違いです。当然小学校の保護者の添い方と中学校の保護者の添い方では違いがでてきます。中学校は、指示命令だけでは、絶対に上手くいきません。自我も目覚めてきます。メンタルブロックも作られるので何もしなければ自己肯定感も自己有用感も低くなる時期です。自分で決めて行動していかなければ進路実現は難しくなります。

今三年生の校長面接をしています。「なぜこの学校を希望したのですか？」「高校に入学したら本気で取り組もうとすることは何ですか？」「中学校で一番頑張ったことは何ですか？」「中学校で思い出に残っていることは何ですか？」「あなたのいいところは何ですか？」「あなたの学級の良さをアピールしてください。」「あなたの学校でみんなが取り組んでいることは何ですか？」「学校のルールは守れましたか？」等を質問していきます。自分からいろいろなことに関わってきた生徒は自信を持って答えます。ところが、下を向いてしまったり、黙り込んでしまったりする生徒も少なからずいます。「親に進められたからです。」「塾から進められたからです。」こういう答え方をする生徒もいます。そういう生徒は、自分の進路に対する確固たる意思が感じられないので、他の質問をしてもとても消極的な答えになってしまいます。

言われたことを言われたとおりにできるのは、大切なことだと思いますが、そこに本人の意思がどれぐらい入っているかが問題なのです。言われたことをそのままやることに終始しているようでは、言った人にとって都合がよいだけで、本人の意欲や能力を引き上げることにはつながらないのです。「あなたが本気で行きたいと思ったのは、何かがあったからでしょ！それは何ですか？」そう聞き返すことで、少し考えてくれます。その積み重ねで進路が決定していくのです。だからこそ学校では、自分で決めさせることを意識していきたいと思っています。

ところが自分で決めただけではなかなか上手くいかないのが進路実現でもあります。一人だけで目指すには限界がでてくるのです。それを超えるためには仲間と支え合い、団体戦で取り組んでいかなければなりません。そこで本校は、「みがき合い・支え合い、心豊かでたくましい生徒」を目指して、日々の教育活動を進めています。学校は他者との関わり方を学び、社会性を身に付けさせる場所です。多少の荒波もみんなで協力し合うことで乗り切れることを学んでほしいと考えています。

私たちは「生徒が必ずできる。可能性を持っている。」ということを信じて指導にあたります。分かれ道にさしかかり、本人により良い道を選択するための学びを与えるようにしています。「自分のために、誰かのために、よりよい道はどちらか」を考えさせながら選択させていくように指導しています。だから生徒が自分で決めるまで待ちます。そして、選択した道を確実に歩むためのエネルギーをつくるために、達成感や満足感を持たせるような授業や部活、学校行事を組み込んで取り組んでいます。

自分で決めること、自分のよさを自覚すること、自分が集団の中で認められていくことを大切にしながら指導しています。新しい学習指導要領も「主体的」「対話的」「深い学び」を大切にしながら、子どもたちの主体性や人と協働すること、創造性や活用力を付けさせていきたいと考えているのです。

そこで、保護者の皆様に三つお願いします。

① 自分で決めさせること（**自己決定**）を大切にしてください。（決めるまで待ってあげてください。）

② 自分のよさや周りのよさを発信してください。（相手を否定することではなく、**前向きな言葉かけ**をお願いします）

③ 手足を思い切り伸ばして、安心してエネルギーを蓄えられる家庭を作ってください。（夫婦仲良く、**笑顔**の絶えない家庭を）

中学生だけでなく家庭環境はとても大切です。是非右の三点を心がけていただき、心配なことがあれば、いつでも学校に連絡しください。必ず一緒に考えて対応していきたいと思っています。